

首都大学東京のFD活動の今後

FD委員会委員長
基礎教育センター長
上野 淳

巻頭に、FD活動は緒についたばかりと記した処ではあるが、少しだけ輪廻が廻り始めたとの認識に立ち、今後の展望や課題について、短く記しておきたい。

(1) 基礎・教養教育部門でのFD活動の定常化、深化・発展

前期・後期で実施した基礎教育全般についてのアンケート調査、都市教養プログラム各科目に対する学生・教員のアンケート調査、等をはじめとする基礎・教養教育部門でのFD活動を定着させ、更に、深化・発展させていきたい。常に課題を発見し、改善・改革に結びつける姿勢を維持することが大切と認識する。

(2) 共通教育科目についてのSEの実施

基礎・教養課程において未着手の共通教育科目等について、18年度にはFD活動を波及させたい。未修言語、数学、理科等の基礎分野は学生が専門分野に進む道筋のなかで非常に重要である。この分野での授業改善等の努力は喫緊の課題と考える。

(3) 各部局でのFD活動の展開（全学展開）

基礎・教養教育分野でのFD活動は定常化しうるとの予感がある。今後は、この流れが各部局において定着し始めるよう、FD委員会を舞台に議論や準備を活性化させたい。

(4) 大学教育学会等での研究成果の発表

首都大学東京の基礎教育課程の挑戦とこの検証は、大学教育学の上でも貴重な経験となりうると考える。FD調査の分析・検討、精査を踏まえ、これらのプロセスを学術論文として発信していきたい。

(5) 基礎教育センターの組織態勢の構築

とはいえ、17年度のFD活動は、定常的な組織や予算の裏付けのないまま、一時的な傾斜配分研究費によっていることは、周知のことである。この緊急避難的な措置を一刻も早く脱却し、安定的な取り組みがなされるような組織態勢の構築が、何よりも重要であると認識する。